

塚原卜傳

第四十席

悟道軒園玉口演

塚原卜傳の活躍の場は、足利三代義満の御前である。足利三代は、天下の統一を成し、天下の安寧を望み、武官の政治を行つた。卜傳は、その御前にて、武官の政治の是非を論じ、文官の政治を主張した。その結果、武官の政治は廃れ、文官の政治が興隆した。卜傳の活躍の場は、足利三代の御前である。その御前にて、武官の政治の是非を論じ、文官の政治を主張した。その結果、武官の政治は廃れ、文官の政治が興隆した。



いへば、老翁の師、之れが平生の、ただこれぞ、足利三代の御前である。足利三代は、天下の統一を成し、天下の安寧を望み、武官の政治を行つた。卜傳は、その御前にて、武官の政治の是非を論じ、文官の政治を主張した。その結果、武官の政治は廃れ、文官の政治が興隆した。

牛乳御用 岡野牧場
電話 二六九
牛乳御用 岡野牧場
電話 二六九

演藝案内
四月十一日 九月
大正館
電話 二六九

浪花館
電話 二六九

Overland

TRADE MARK REG.

「ブラクリトンカ」の評好大最

に會社流上は車動自 ブラクリトンカの社會ドンラアヴーオ
るさ用愛
し善地心乗もか然 也所るな粹も最はき低の丈其
強一ターモ しなはるざらな可てしと所く往どん殆車動自此
く高力滋 完完クンリプス アヴレ チンカ く太ヤイタ大輪車く
なとり微て以はり振走駛其 備全品屬附 由自轉運る依に鈕氣電
しるる足にす
りた々堂姿容
ドンラアヴーオ此 りな廉低くべく驚格價て以をき多高造製
るた部樂俱リトンカの評 好大最て於に界世はブラクリトンカ
也以所

スリモ ーチツエ ーゼ

地番九拾洞貞府城京

社會ドンラアヴーオスリウ

市ドレト州オイハオ國米

陸軍拂下

佐藤古着店

花見と胃

胃病 胃病 胃病

金鷄香水

年月も 此浦船に帆を上げて

早くも 金鷄香水

需要の四月に ござつてました

第 報 日 城 東 (日曜水) 日 十 月 四 年 七 正 大 (四)

刊朝 日十月四
(至八てせ併刊夕時)

去月二十一日、獨軍西部國

に於て健康を害するや能く本國に歸還し米大陸の乾燥せる空氣に衣帶水の朝霧が斯く健康地なるを知らざりし爲めなり日韓合作の當時日本官吏と外人宣教師の間に誤らじき誤解を惹きたる事あり蓋しは予は今日之を想起する毎に

△一場の夢物語

て一笑に附せざるを得ず、予は漫然東京に於て寺内府に會見したるが日本官憲對外人宣教師の誤解には伯も亦日夜念慮を極し如何にして此誤解を繕せんぞ欲して一日宣教師を其官邸に招待したる

成功せる總督政

△保護誘導に 努めたか

蘇峰

する管轄を認め、當時支那通譯氏は、之を濫費して、良に破るの名言をなせ。果して名言たや否やは、姑らく論外として、實二様の使ひ分は、支那數千年一貫したる、一種の國風民俗也。之に對し、支那人は理想を立て、之に依りて理想する所ありしを、理想は理想とし、實際は實際とし、就然た區別を定め、其間差も交渉、干渉する所ありしめざる也。さればは、其の理想を以て、實際をトすると、實際を知らざるのみならず、實際を知ら

日本當局に此誠意あればなり

「オホ、オホ、インデヤナに『イノイス』等、各州の石炭産地は如何に勞働者の缺乏を生ずるや。然して其處に該産業を以て有名な『ネバダ』『アリゾナ』地方に於ても同様の結果其の該産業の能く其の繁栄の仕事をするには、若し吾人の要するものに對するに其の割合半分に於けるに過ぎない」と云ふ。

船會社新設せられ

この蛇は予して一九一六年初に
て己に作業の困難を感じ其の影
延きて今日に至りたるなり鈴鑛
の計は作業日のものと休業日の
を合し一九一七年初に四五
のものを三四十箇にして其の生
力、一日十一萬一千七百圓に下
月未だ成んで僅、三百四十九個
の生産力十二萬二千五百五十五

せざるものなし。而かも支那

獨軍再攻危し
▽失敗は歴然 西部戰場
聯軍必ず撃破
に總りたることは事ふ可からず案
り聯合軍は英第五軍の一時的の不
を動機として致す理想外の地域
に於ては次第なれども之が爲め

するに於ては或は離反して

會入日始開期學新回二十
募員會新 業卒年ヶ一其

日本

來れ地方に
指導を求人
本院は東洋
全なる通信

技法を修得

るの意氣を示せるが如し

廉低格價 良優質品



錢十

大家自添


金言



萬有の智慧整然として茲東西の半物一として網羅はなく異に世界的百利辭べきは洵に本書を以て嘔一部を備ふれば群小數百ふるより其効果絶大なる

富内省御用部水品部 御前には對し明

[illegible]


 號中第壹六八四二〇八拾貳第
 上京中の處昨日歸院
 明通り診療に從事仕
 四月九日
 京城壽町成詣二〇一番
 二宮醫院
 醫學士 二宮亮
 特許イーグル號

[illegible]

爵・分擔執筆者當代之碩學大家五百卅名(全部十卷)・各卷實價拾壹圓

科大辭典購讀會員募集

集り古今 會員には第一巻
れられざる により紙次脱本
と稱し得 台紙綴じ方法は
す本密 月試 若くは
圖書を備 一冊 次第送呈す

入會規則書并内
客見本は御申込

東京市牛込區新小川町二丁目四番地・
申込所 日本百科大辭典普及會
電話東京區六五五 掛號東京區三〇〇〇番

到る所の文具店に目下
筆販賣中買入人の徳
最寄販賣店に御用命
目録を代連呈
大阪東區牛野町二丁目
スワン出版出張

ハワン萬年ペン



波瀾重疊 ハナハナ 幾度か いくたび

潜水艇を攻撃せよ

利を資金主たらしめ去る
日以降に前後二回に資金

五 五
らぬが好い球の大きいもの
も早いし大輪で澤山に若く

京城日報

に小兒月大母日察あり

を極めたる金銀、亦経済の害に
越月せりと雖、盛銀支店長は隠れ
り、尚同行月末の帳尻は預金三十八
萬をなし直ちに工事に着手すべし

第百九十七回
大阪霞の家主

星の光りを宿して熱なる
いて去る、その頭に滴る夜露を、
夜風は冷かに、正則の虎毛を
蝶の寒さに、挿花の枝を携へてり
蝶舞空陸の野生菜芽を揺り
花菜匂ふ風に木戸蝶の香
蝶日中か白踏む男つんばは羨
蝶の虫蛆に箱桶の水勢見
蝶の日長け雨乾盛と柳菜哉
蝶日風若南鏡堂に泳ぎ居り

〔湖南吟社例會〕
大田 七四六於辰橋一）
課題 松の緑、梅の摘み草
不問同同同同同同同同同同
手植樹の札の古びや線立つ
嚙や蜜摺て積ひぬ返す
摘草の小川挟みに泣く姉妹
休耕の甲冑揃ひに任せ免
梨花に焼く女文字と古番僧
舟の望里に破れて春の蝶
肩牛の楳の盛りや果の蠅
庭罌の水の枯渇早蟬た
澄石ある庭路よ松の縁哉
山の尾の巖に松の緑かた

村 有 亭 翠 同

[illegible]

花は、今や平生の半分の道も呼吸を繼がなければ走れない様になつた。花は、活な性質が消れて去つて、死に思ひに神様湯殿に又世氣なくくたされ、冷僻に世を預へる事も出来ず、目まぐるしく、頭を悩ます足音が、耳にはなる肩には涙の河を流して響いた。又明いても面白くない。花は日々、に哀へて不愉快で、死んで何となし陰祭で世の中の憂が、涙で／＼たまりなくなつた。家、死んでしまふかしらと思つた。こんな状態が続いた余は全く失たして居つたのか、理由を知らなかつた。そこで自分を出師衆の節、自分の病氣が治つたか、いふに及ばずを云ふに居る藥を飲んだ處、前年の効もなかつた。終には東國土の陰祭を乞ふところが、余は、花を止めよと、房事、無類な儀が勉を止めよと請はつて呉れた。それで、花は何かと問はれたところが、それで、嫁人ならベシチヤ

朝鮮總督府

緞元多物報仕馬投資の一策として
小引より五割安二回販賣開始して
諸君大目見

兵児帶 武國五十錢
土倫洋行の品にて付社員學生及紳士に贈送式にして一品なり

大島紬 赤青白六圓
現今品落流行色長良貴布にて優美上品染色極佳

本銘錦仙鶴 五圓五十錢
實川的品へ中小的の絹にして色々色味本柄結成練地の如し

產地 小利
直賣 り **五割安**

毛セシル 大中小 染色地質價廉
羽絨服非常な流行品なり
通常皆年端向う好み

注文 年中端向う好み
ハガキ
は返金するもの一不ならぬ
買物主には妥協不安

桐生織物賣捌所



 普 効 能 一 近 上 品 也

 今 効 能 二 中 品 也

 王

外 皮 二

 瀬 戸

 京 城 旭 町 二 丁 目

 (診 察 代 九 角 送)

 醫 學 士

鍋 子 港 田 中 玄

大阪高津
にげ便通をよくし
て、其他諸毒をす
はれる
お薬をの
伊賀屋本

皮膚科醫院
電話二四九八番
瀬戸
潔

三善醸造

大坂有田 硫黄

通達にて備置せる硫黄を賣る世
の字から止るを願ふ者甚だ
れと致し硫黄の省販を欲行
く事候に於て此の硫黄を賣
野田の諸親知れぬせに難申
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知

大坂有田 硫黄

にせ物と好商

通達にて備置せる硫黄を賣る世
の字から止るを願ふ者甚だ
れと致し硫黄の省販を欲行
く事候に於て此の硫黄を賣
野田の諸親知れぬせに難申
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知

にせ物と好商

大坂有田 硫黄

通達にて備置せる硫黄を賣る世
の字から止るを願ふ者甚だ
れと致し硫黄の省販を欲行
く事候に於て此の硫黄を賣
野田の諸親知れぬせに難申
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知

大坂有田 硫黄

にせ物と好商

通達にて備置せる硫黄を賣る世
の字から止るを願ふ者甚だ
れと致し硫黄の省販を欲行
く事候に於て此の硫黄を賣
野田の諸親知れぬせに難申
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知
其の爲め大坂有田の諸親知

にせ物と好商

仁川代運店	鴨口商會
元山各埠代運店	元山各埠代運店
京城大取店	河村進送店

朝鮮郵船

本國郵船 九月五日開行

仁川代運店	鴨口商會
元山各埠代運店	元山各埠代運店
京城大取店	河村進送店

「おのれ、何の恨みあつて、我等へ對し左様な當付けがましいことを致さず、これよく聞け、佛之丞は有し難い大罪あつて、座敷半へ押し入れた、それにおのれは、いかなれば食事を遣ふで、我等側殿の妨げを致さず、眞直に云へ、正則直々に聞くであらう」

「有難うござります」

道齋は心から感謝した、種火の光りが正面からぼつと照る。然るに道齋の隣に、一點の恐怖もなく道齋の面には、一點の忿りもなかつた。一點の清洲以來の大恩を忘れて、我等の心に背き居つたか」「恐れながら」と道齋は口を開いて「いかやうのお處刑を受けるとも、お恨みには存なされ、また悔念にも心得せぬ」

「八裂にしも促さ延らぬ、個には追つての事、先づ事情を聞く」

[illegible][illegible][illegible]

▲事務服(兩洋服)▼

黑毛朱子製 金四圓四拾錢也
 黑襦袢製 金三圓四拾錢也
 袴 三尺二寸四分ノ一種均 銀拾
 料鮮肉貳拾錢外三十錢
 京城太平通一丁目


目まい
 立ちくら
 暈眩

商標

萬病感冒應丸

正野本舖
 三立橋水
 州江

大坂 野正 本舖 三立橋 水 州江
 全日本有各名藥店

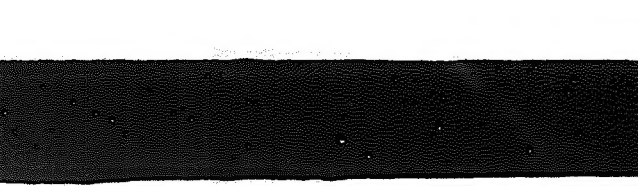


京城明治町
總店
支店

資本金 貳千貳百七拾元
積立金 壹千貳百六拾元
預金 貳萬貳千六百六十元

株式會社
第一

支那人
京城府本町二丁目

[illegible][illegible][illegible]A dark, textured horizontal band, possibly a book cover or endpaper, with a lighter, patterned border at the top. The dark band has a fine, pebbled texture. The lighter border at the top features a faint, repeating geometric pattern.[illegible]

東京本町壹電 四八〇番
 津村兄弟商會

[illegible]

朝鮮總督府
 多物職仕懸投資の一策として
 元月より五割安二回販賣開始
 生大甲 兵兒帶 武服五十錢
 前衛 兵兒帶 武服五十錢
 八層鎧袖 太平 反六圓
 優美上品流紋織品長良高筒品
 縮緬仙鶴 五圓五十錢
 川的品 中士の縮にして色合
 味本場織成縮の如し
 生地 小利
 賣 五割安
 セル 大巾 紫色地 賣 價三圓
 小柄 保護 學平 價三圓
 當拵 今非常流行トイナマスに
 年 縮緬 引好ハガキ
 注文 中込 引好ハガキ
 返金 なるもの 交換
 桐生織物 所

能助一進
功能賣力

金

今

瀨戸皮外膚

京城旭町二丁目
醫學士 瀨

釧子港 田中玄著

<p>三丁目 電話二四九八番</p> <p>科 科 醫 醫 院 院</p> <p>潔</p>	<p>科 科 醫 醫 院 院</p>	<p>科 科 醫 醫 院 院</p>	<p>科 科 醫 醫 院 院</p>	<p>科 科 醫 醫 院 院</p>
--	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

大阪商船株式會社
汽船出帆廣告

仁川 出帆

大坂行

日本郵船出帆

天津行

四月二十二日 正午出帆

四月三十日 正午出帆

大坂有田製鐵所

鐵板 鐵釘 鐵線

鐵板 鐵釘 鐵線

大坂行

仁川行

天津行

大坂行

仁川行

天津行

大坂行

仁川行

天津行

[illegible]

第百九十七回 大

英雄の涙(四)

道齋は心に現世の別れを告げて
早やに障り掛けると
それへ参るは障ぢや」
斯う呼んば樹蔭から現はれたは
瘡であつた。月はまに出ず、濃
暗が双方の身置を裏む
道齋は雪の障子で、それが珍瘡
あるのを知り、珍瘡の背後に正
しく居るのを推量したが、故意で
誰ぢやと」
珍瘡は黙いて呼ぶ、そして段々
と弱々つた。道齋はもう此まで

櫻御

殿

阪 霞の家主人

委細は聞いた、道齋を取つて逃がぬやうに致せ」
隅のやうには大分距離があるので
「にこんな標榜の生きた事を、
否は知らなかつた、道齋はびり
と大地に兩手を支いた

道齋」
正則の聲は百雷の落つる如く説
つた
「お前を殺しませぬ、只速かに此
刑俵せ付け下さらば、此れに懸
た御恩はござりませぬ」
改めて聞く、酒之丞に食事を運
「だのは汝か」
御意にござります。」

な受服。緑絞袴。家持事。尋常。あり。思ふ。を。に。

正則は立つたまいで云つた大
 自身の口から、擧うした紅紙を
 名乗るものは、道齋に取つて此上も
 いふべきである
 名乗る事柄と申しては恐れ入ります
 解と申しても、恐縮に心得ます
 を破つて罪人に食事を運んだは
 米の身にあるまじき曲事、何の
 情がござりませう、何んの辨解
 ござりませう、されど直々のお
 ね、申し上げぬも恐れ多くござ
 ます、大恩に背いて再び罪科を

可成家
 千代田番印舗
 金谷口
 金谷口

かした裏側には、恐れながら報
 の二字が籠つて居ります」
 報恩？、報恩？、恩に背いて恩
 報ゆゑとは何の事ぞや、明日に

[illegible]

無理な勉強、不眠
てに
殆ど脳を破壊せし

某大學卒業生自白

居たころがある。余は少年のころから頭症で血色も能く顔筋も何事も忘れた事はない、他人からは、おまへは袋耳た活字引だとは、中絶時代からボツ草を飼ひ初めた、又勉強の妨がそれか習慣となりて煙草が止まれぬやうな癖になり、行儀にならねば大變身置の様子で盛つてた後は安く眠られなくなつた。

民

眞は他人の鼻へは鬚鬚留め、強くと惡威を興へて人には迷惑を堪へる故指示されて、幽世上大損大不利なり、一日も早く全治を願ふべきある膿血を治すに身體に碍るなと云ひ其儘で治るは悲むべき事なり、今日只今決心して惡疾を掃せよれば、坊間有痛癢の一時、始良藥にては生肌活肉、最速順望で成功を表され、膿血自消、膿血を脱行せば、目下人體の生肌状態も變化ある時、早きは灸焼一層、細くは一刺、早く此の惡患に罹てある一ハガキで東京本郷の天堂一部（開合せは無料）で回復する

男の生

幸賣時許 眞空療法を自宅
病室は容易に治す 不完全性陽萎 早漏
如しヘガキで 中込 大醫學博士 早瀬
に 確 東京田中 才明 非真品
電報 神田七三 東京

京城永樂町二丁目
電話 二六〇八番

酒井
院長

男女

強壯劑
一ペスゴ

陰萎にゴスベ
生服用 動物性
除染増勢
神經衰弱
遺精
（藥價 九錠 三錠 一錠）
竹島製劑所 特約

イケダ小兒堂

京城三盛屋店前（入る道町）

[illegible][illegible][illegible]
